

2019年3月19日～2024年5月31日の間に 当院脳神経内科・もの忘れ外来を受診された方およびご家族の方へ

「早発性アルツハイマー型認知症者における認知機能の特徴」へのご協力をお願い

本研究の内容は、研究に参加される方の権利を守るため、研究を実施することの適否について川崎医科大学・同附属病院倫理委員会にて審査され、既に審議を受け、承認を得ています。また、学長と病院長の許可を得ています。

研究責任者 川崎医科大学附属病院 臨床心理センター 臨床心理士 安田万里子
研究分担者 川崎医科大学附属病院 臨床心理センター 臨床心理士 谷英俊
川崎医科大学附属病院 臨床心理センター 臨床心理士 赤松祐美
川崎医科大学神経内科学 教授 三原雅史
川崎医科大学神経内科学 講師 久徳弓子
川崎医科大学附属病院 患者診療支援センター 医療ソーシャルワーカー 副主任 金島由佳
川崎医科大学附属病院 患者診療支援センター 医療ソーシャルワーカー 中畑海咲

1. 研究の概要

認知症は一度正常発達した認知機能が何らかの原因で低下し、日常生活に支障をきたす状態をいいます。認知症の原因疾患で最も多いのがアルツハイマー型認知症であり、記憶力低下などの認知機能低下を引き起こします。一般的に高齢者に多い疾患と捉えられやすいですが、若い年齢でもかかることがあります。65歳未満に発症するものを早発性アルツハイマー型認知症、65歳以上に発症するものを晩発性アルツハイマー型認知症といいます。それぞれの病態で認知機能低下の速度が異なり、前者は急速な認知機能低下が見られ、後者は緩やかに進行します。しかし、国内では早発性アルツハイマー型認知症の症例数が少ないためか、認知機能別での進行速度を詳細に調査したものはほとんどありません。

本研究の目的は、第1には、早発性アルツハイマー型認知症者と晩発性アルツハイマー型認知症者を比較することで両疾患に記憶や知覚といった認知機能の低下パターンに違いがあるかを明らかにすることにあります。第2には、各疾患での経年変化の特徴を探ることにあります。

2. 研究の方法

1) 研究対象者

2019年3月19日～2024年5月31日の間に川崎医科大学附属病院脳神経内科もの忘れ外来を受診され、アルツハイマー型認知症と診断された方を研究対象とします。

2) 研究期間

倫理委員会承認日～2024年12月31日

3) 研究方法

上記の研究対象期間に当院において脳神経内科もの忘れ外来を受診したアルツハイマー型認知症の方に研究者が実施した神経心理検査結果、質問紙調査結果のデータを統計処理し、早発性アルツハイマー型認知症

の認知機能の特徴を明らかにします。

4) 使用する情報の種類

年齢、性別、診断名、神経心理検査結果、質問紙検査結果 等

5) 情報の保存

この研究に使用した情報は、研究の中止または論文等の発表から5年間、当院臨床心理センター内で保存させていただきます。電子情報の場合はパスワード等で制御されたコンピューターに保存し、その他の情報は施錠可能な保管庫に保存します。

6) 研究計画書および個人情報の開示

あなたのご希望があれば、個人情報の保護や研究の独創性の確保に支障がない範囲内で、この研究計画の資料等を閲覧または入手することができますので、お申し出ください。

この研究は氏名、生年月日などのあなたを直ちに特定できるデータをわからない形にして、学会や論文で発表しますので、ご了解ください。

この研究にご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。また、あなたの情報が研究に使用されることについて、あなたもしくは代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、2024年8月31日までの間に、下記の連絡先までお申し出ください。この場合も診療など病院サービスにおいて患者さんに不利益が生じることはありません。

<お問い合わせ・連絡先>

川崎医科大学附属病院 臨床心理センター

氏名:安田 万里子

電話:086-462-1111 内線 21537(平日:9時~17時)

E-mail:yasuda@hp.kawasaki-m.ac.jp

3. 資金と利益相反

この研究において、資金の受入及び使用はありません。研究をするために必要な資金をスポンサー(製薬会社等)から提供してもらうことにより、その結果の判断に利害が発生し、結果の判断にひずみが起こりかねない状態を利益相反状態といいます。本研究に関する利益相反の有無および内容について、川崎医科大学利益相反委員会に申告し、適正に管理されています。